

品目	県名	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
ストック	山形	・10月は、出荷過剰となった前年に比べ少なかったが、11月上旬から気温が高めで経過していることから、11月中旬以降、出荷数量が増加している。 ・12月の出荷量は、少なかった前年より多いと見込んでいるものの、スプレー系は平年より少ないと思われる。	現状 山形産は庄内方面中心に上中旬よりST、SP共に昨年ほどではないが数量増加傾向。千葉産も作付け遅らせていたが、いよいよ出荷スタート。相場も下旬に向けて段階的に落ち着く。
			見通し 大田花き 今後の気候次第だが12月上旬に山形産はやや数量まとまる見込みで、年末までだらだら出荷。千葉産は昨年と比べて大きなピークなく年内は出荷ある見込み。 FAJ 年末に向けて千葉からも入荷開始。ほぼ昨年並みの入荷数量を予定。
	千葉	①すべての作型で平年より10日程度進んでいる。気温高・日照不足により若干ポリウムに欠けるものが見られる。 ②西岬共選はアイアンシリーズ。その他はカルテットシリーズが中心。	東日本板橋花き 世田谷花き 千葉の大型産地で種子の取り違いがあり、SP系の白少なめ。 第一花き 現状入荷は少ない業務需要主体に引き合いは有る。このころの冷え込みもあり入荷は減少年末需要も有り強い引き合い。
		①気温が高いため、昨年ほどではないが平年に比べると1週間程度生育が前進している。 ②カルテットシリーズが中心。 ③JAいすみ花き出荷組合は10月29日にほ場検討会、11月20日に出荷査定会を実施し、品質、出荷規格について確認した。 ①平年よりも開花が進んでいる。出荷は12月中旬にピークとなり。年内で切り上がる見込み。 ②スプレー系のカルテットシリーズ(チェリー、ホワイト、マリン主体)	
アルストロメリア	山形	・8月中旬から9月中旬に平年より低い温度で経過したため、生育は順調である。 ・12月の出荷量は、前年並と見込まれる。 ・病害虫の発生は少なく、品質は良好である。	現状 愛知、長野の出荷数量が増加傾向になり、ピンク、白、黄中心にまとまった入荷となった。葬儀需要も落ち着き、中値での相場展開。
			見通し 大田花き 愛知、長野、山形中心に各産地増加傾向となり、各色入荷する。赤、オレンジは作付けが少なく少量の入荷となるが、小売りの需要も弱くなることが予想されるため、中値での取引が続く見込み。 560,000本 @90 FAJ 引き続き長野・山形より入荷。年末に向けてまとまった入荷が見込まれる。
		東日本板橋花き 愛知・青森・福島・北海道中心の入荷。年末需要中心に引き合いが強まる。 世田谷花き 上位中心の出荷になる見込み。業務の引合いが強まる見込み。 第一花き 入荷の多く無い時期で、年末需要の動き。	
さくら	山形	・促成は例年どおり12月上旬から本格化し、年内出荷は下旬から本格化すると見込まれる。 ・前年より早期に落葉した園地がやや多いものの、花芽の着生は良好である。 ・出荷量は、スリーブ出荷の定着によりほぼ前年並みが見込まれる。	現状
			見通し 大田花き FAJ 東日本板橋花き 世田谷花き 第一花き

品目	県名	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
バラ	群馬	真冬に向かい気温低下の影響はあるが、出荷量は平年並みで、現在の芽吹きの様子から12月後半から1月にかけて徐々に出荷量が増える見込み。上位等級品は安定した出荷を見込む。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">現状</div> 昨年より気温が高く、購入マインドが専門店中心に非常に低く、販売環境は極めて厳しい。22日の婚礼の注文は昨年並みの受注量であるが、サイクルの関係上入荷は少ない。
	静岡	重油や環境制御などの効果もあり、上位階級の発生率および品質についても高まっている。ただ数量については雨続きによる病気もあり、思うように伸びてこない。年末については急増はなく、ダラダラとした出荷となる見込み。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">見通し</div> 大田花き 重油の価格が暴落している為、昨年度より加温をして出荷する産地が多くなることが予想される。中旬以降はクリスマスの引き合いにより、赤系品種中心に強くなる。
	山梨	生育は昨年とほぼ同じ。天候悪く、うどんこ病の発生がやや多い。	FAJ ほぼ昨年並みの入荷数量を予定。引き続き愛知・静岡など西南暖地中心の取引に。 東日本板橋花き 静岡、栃木県産中心に暖地メインの入荷となってくる。輸入品は横ばい。赤バラ中心に引き合い強まる見込み。
	大分	出荷の大きな増減のない月となる。上位等階級が中心の出荷見込み。オリジナル品種については50～60cm程度が中心の出荷見込み。	世田谷花き 入荷量は減少するものの正月商材との兼ね合いもあり、セリ場は弱保合。クリスマスに向けて赤系中心の動きがある見込み。 第一花き クリスマス需要で赤系は例年落ち着いている感じ他品種も落ち着いた流れ。
トルコギキョウ	静岡	産地にバラつきがあるものの、秋出し分の生育遅れなどもあり、そこそこ潤沢な出荷となっている。全体的にはフザリウムやチップバーンなどの病気がみられるため、来月もダラダラの出荷見込み。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">現状</div> 天候がよく気温が高い日も多かった為、暖地方面の出荷が増加。大きな需要が無かった為、数量増加した上中旬では厳しい相場となった。
	熊本	台風による植替えや、生育の遅れなどもあり、昨年と比較して12月の出荷量は増加する見込み。ピークは12月中旬ごろとなる見込み。10月以降の乾燥の影響で全体的にやや丈が短くなっている。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">見通し</div> 大田花き 天候に左右される部分も多く、産地により増減はあるが、現状大幅な減少は無く安定した出荷が続く見込み。
	宮崎	生育は順調で中旬から本格的に出荷がまとまってくる見込み。生育状況については、若干、灰色かび病、菌核病の発生が見られるものの、安定した出荷が見込まれる。	FAJ 熊本・栃木中心に年末に向けて入荷数量増量。中盤まではやや落ち着いた取り引きとなる見込み。 東日本板橋花き 静岡、高知、栃木県産メインの入荷。台湾産も徐々に入荷増えてくる見込み。年末需要に向けて引き合い強まる。
	大分	他品目同様に前進気味の生育。11月下旬が出荷ピークとなり12月出荷は県内産地でそろっているが、玫珠九重は終盤となり数量が減少してくる見込み。	世田谷花き 高知・熊本・愛知などから各色入荷。 第一花き 年末需要・業務需要中心の流れ。品種・品質格差の単価差は出ている。
	福岡	数量は、秋出し(10～11月)の出荷は各産地7～8割は終了しており、12月上旬以降は減少する見込み。その後も産地によっては出荷があるが、数量は多くない。	
小ギク	沖縄	台風の被害もなく定植から生育まで概ね順調に推移している。配色割合は黄：白：赤＝45：28：27となっている。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">現状</div> 産地の切り替わりに入り、上旬は不安定な入荷となり、需要に対して供給量が少なく安定販売となる。中下旬以降、沖縄、山形中心に数量増加するが、小売りの販売は厳しい状況。
			<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">見通し</div> 大田花き 年末需要中心の動きとなるので、上中旬は引き合いやや弱めで推移。中下旬以降より年末需要に向けて本格的な引き合いとなる見込み。色バランスに関しては黄色の割合がやや多めとなる。 FAJ 沖縄産は年末に向けて徐々に黄色中心の出荷となる見込み。 東日本板橋花き 年末需要中心、潤沢感ある見込み@40 世田谷花き 昨年よりは入荷は増える見込みだが、大幅な増加にはならない見込み。 第一花き 後半は、年末需要中心の流れで、高値はないが安定した流れ